



“ジュネーブから今を見る” 今日のヘッドライン

北米

2017年6月5日

米雇用統計、失業率は改善すれど、市場は踊らず

5月の米雇用統計は、全体に軟調な結果でした。6月の米連邦公開市場委員会(FOMC)利上げ予想に影響を与えることは無いと見られますが、将来の利上げペースを緩やかに(回数を減らす)させる可能性は考えられます。

5月米雇用統計：非農業部門雇用者数は市場予想を下回るも、失業率4.3%に低下

米労働省が2017年6月2日に発表した5月の雇用統計によると、非農業部門雇用者数は前月比13.8万人増と、市場予想(18.2万人増)、4月(17.4万人増と速報値の21.1万人から下方修正)を下回りました。なお、3月と4月は合わせて6.6万人の下方修正となりました。家計調査に基づく5月の失業率は4.3%で、市場予想(4.4%)、前月の4.4%から低下しました。平均時給は前月比では0.2%増と、市場予想(0.2%)と一致、前月は0.2%と速報値の0.3%から下方修正されました。

どこに注目すべきか：

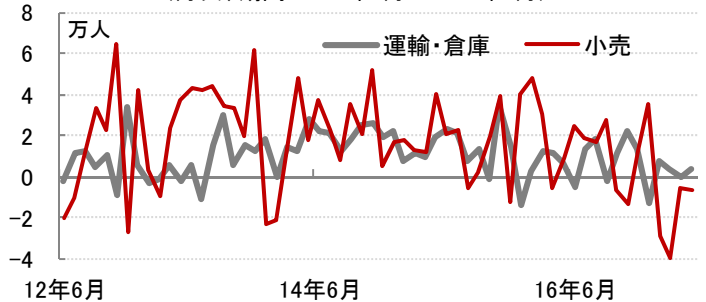
6月FOMC、非農業部門雇用者数、失業率

5月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が市場予想を下回るなど全体に軟調な結果となりました。6月の米連邦公開市場委員会(FOMC)利上げ予想に影響を与えることは無いと見られますが、次の点に注目すると、将来の利上げペースを緩やかに(回数を減らす)させる可能性は考えられます。まず、雇用統計を受けた米国債市場の反応を見ると、短期債の変動は限定的である一方、中長期債の利回りは概ね0.05%程度低下(価格は上昇)しています。市場の大半が予想している6月FOMCの利上げシナリオへの影響は限られるも、利上げペースへの影響を想定させる市場の反応です。次に、雇用統計のどの点が期待はずれであったかに注目すると、非農業部門雇用者数は5月分が前月比13.8万人増と、市場予想を下回り、3月と4月が下方修正されています。もっとも米連邦準備制度理事会(FRB)イエレン議長は今後の雇用者数の伸びは7.5~12.5万人が適切と述べたこともあり、雇用者数の水準自体はまずまずと思われまます。気になるのは雇用者数の内訳です。特に小売が同-0.6万人と4か月連続で減少したほか、娯楽・宿泊の伸びも鈍化するなど消費の弱さが示唆される内容でした。小売が軟調なのはオンライン販売へのシフトという構造要因が背景のひとつかもしれませんが、しかし、その分増加が期待される運輸・倉庫セクターの伸びを

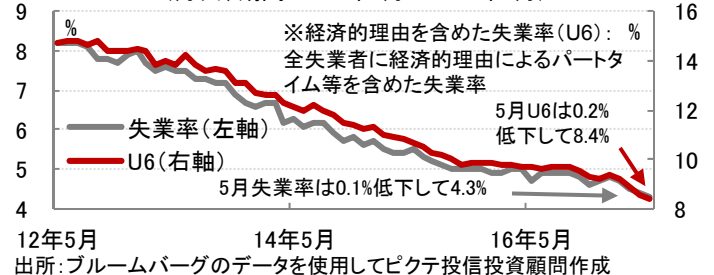
見ても緩やかな回復にとどまっています(図表1参照)。失業率は4.3%に低下、雇用市場がタイトなことを示唆しています。雇用市場の質を表す経済的理由を含めた失業率(U6)も低下するなど改善も見られます(図表2参照)。ただし失業率改善の背景は失業者数の減少に加え、就業者数も縮小した結果、労働参加率が低下(0.2%低下して62.7%)したことによる面もあり、手放しでは喜べない失業率の低下である点に注意は必要です。

平均時間当たり賃金は前年同月比2.5%増と期待を下回る水準です。失業率低下という賃金の押し上げ要因が賃金上昇に反映されない事が、軟調さを引き立てる格好となっています。6月のFOMCでは、利上げそのものより、FOMC参加者による政策金利の予想分布に注目する必要性があると見ています。

図表1：小売と運輸・倉庫の雇用者数(前月比)の推移
(月次、期間：2012年6月～2017年5月)



図表2：失業率と経済的理由を含めた失業率の推移
(月次、期間：2012年5月～2017年5月)



ピクテ投信投資顧問株式会社

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。